生活工房
アニュアルレポート
2013

LIFESTYLE DESIGN CENTER ANNUAL REPORT 2013

APRIL 2013 – MARCH 2014

2013年度に実施した事業をギュッとまとめました！

LIFESTYLE DESIGN CENTER ANNUAL REPORT 2013

APRIL 2013 – MARCH 2014

生活工房アニュアルレポート2013

撮影＝豊田 都

撮影＝豊田 都

みる × しる × つくる ＝ 暮らしがかわる。

生活工房

撮影＝松岡一哲

◀ P.60 「世田谷アートフリマ」

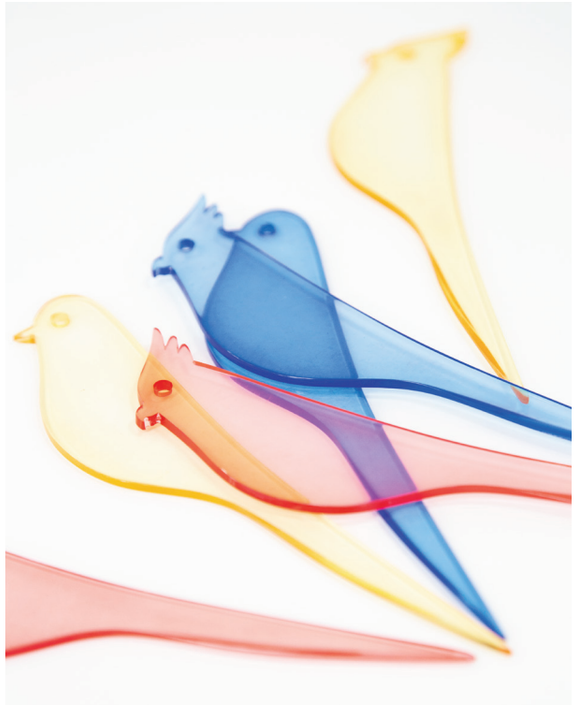
だいじ ＋ おもしろい ＝ 暮らしがかわる。

ヒーロー せたがやじん

撮影＝佐藤基

◀ P.34「日常／非日常展」

◀ P.42 「渋産ー made in shibuya product」



撮影＝松岡一哲

つくり手の心 × やわらかな発想 ＝ 暮らしがかわる。

昭和女子大学 環境デザイン学科 榊 伸夫

撮影＝松岡一哲

◀ P.43「布おもちゃを届けて TOY工房どんぐりの30年」

撮影＝嶋本麻利沙

◀ P.53「SUNDAY MORNING WORKSHOP」

クリーンエネルギーの充実 ツール提供 × それぞれが学習して身につける ＝ 暮らしがかわる。

石山修武
世田谷式住宅設計者

撮影＝植本一子

◀ P.57「知の航海2013」

撮影＝永峰拓也

◀ P.36「集う衣服展」

Nothing = Everything = 暮らしがかわる。

森田恭通
衣服造形家

◀ P.35 「DAYS JAPAN写真展2013」

第9回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞1位
「自由シリア軍」の戦い
写真＝ゴラン・トマシェヴィッチ

第9回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞パブリックプライズ
東日本大震災　亡き人への想い胸に
写真＝鹿野修三(Kyodo News)

撮影＝川村尚子（Shibaraku）

◀ P.40 レイ・リケット バッグ展「BAG, ALL RIGHT!」

◀ P.50「14歳のワンピース」

撮影＝永峰拓也

◀ P.37「窓花 中国の切り紙展」

手で感じる × 手で考える ＝ 暮らしがかわる。

造形作家
文化人類学研究者

下中菜穂
丹羽朋子

生活工房カレンダー calendar

365日

展示
ワークショップ
セミナー
地域と市民活動

C'est bon!

	MARCH	FEBRUARY	JANUARY	DECEMBER	NOVEMBER	OCTOBER
01						
02						
03						
04	NPO・市民活動のためのマーケティングセミナー					
05						
06						
07						
08		知の航海		知の航海		
09			集う衣服展			
10					中学生PHV教室	
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17					分解WS	
18						
19					世田谷おはなしネットワーク講演会	
20						
21	防災WS					
22						
23	ワークショップ報告展 夏の子ども					
24				集う衣服展		
25			ギニア湾とヨルバ族のアディレ			
26			朝のワインWS			
27						
28						
29						
30						
31						

	SEPTEMBER	AUGUST	JULY	JUNE	MAY	APRIL
01						
02						
03						
04						
05						
06						
07						
08						
09		14歳のワンピース				
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						

朝のウッド・クラフトWS
BAG, ALL RIGHT! 展
シルク交流展
日常／非日常展
朝のコーヒーWS
DAYS JAPAN 写真展
インフォメーショングラフィックス展
シルク交流展
BAG, ALL RIGHT! 展
「触れる地球」WS
「触れる地球」セミナー
世田谷おはなしネットワーク講演会
世田谷アートフリマ19
JAPONDER10
世田谷アートフリマ20
おはなしいっぱい
夏のNEWSなアニメーション!
知の航海
くらし・うるし研究室
INFO

生活工房とは?
About LIFESTYLE DESIGN CENTER

暮らしのデザインミュージアム
Design museum of the living

生活文化という発想

生活工房では日常の暮らしの中にあるモノだけでなく様々な事柄に着目し、暮らし方のデザインを提案しています。

生きるという基本的な活動の「衣食住」、地球をとりまく環境と暮らし方、日本や世界の様々な地域の独自文化、伝統工芸と先端技術 —— 根源的なことから創造性を育む領域まで、私たちのプログラムは多岐にわたっています。

地球のデザインという視点

2012年度(平成24年度)から「地球のデザイン」という視点を取り入れています。その根本には「自然の叡智」に学ぶことも含まれています。

エネルギーや食糧のこと、70億を超えた地球人口のこと、生物多様性や気候変動への備えなど、21世紀の私たちを取り巻く環境にはたくさんの課題があります。

↓

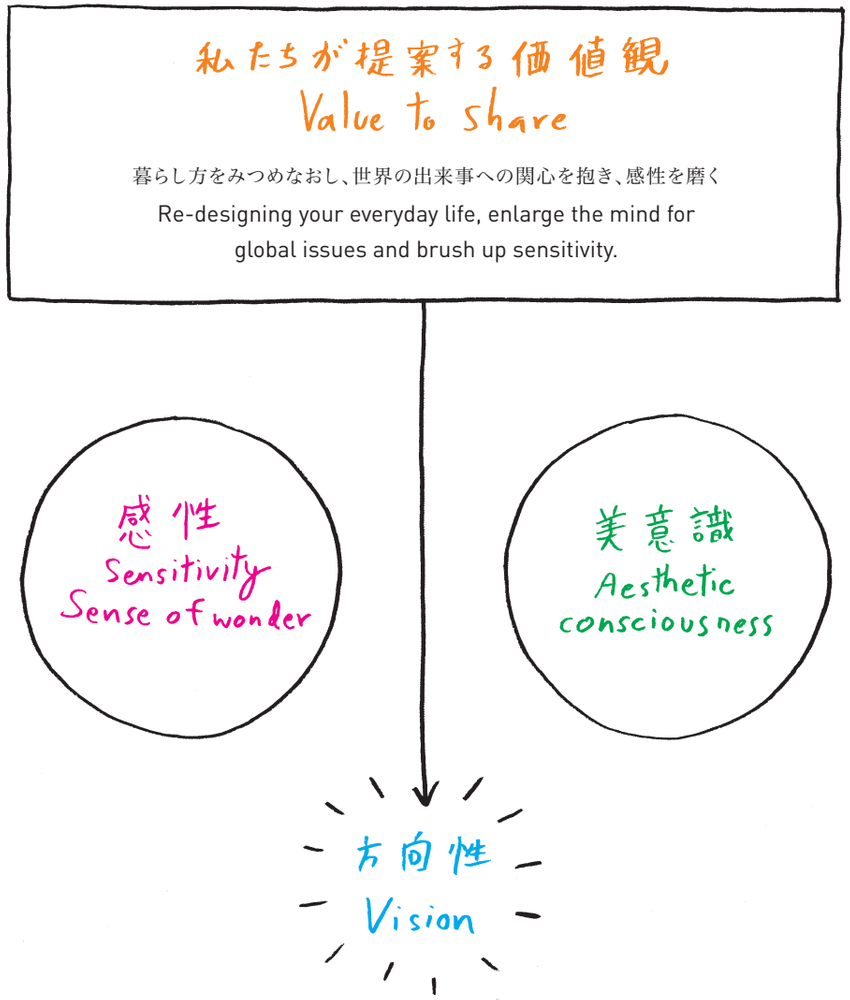
生活文化という発想に「地球のデザイン」という視点を加えて、そう遠くない未来の暮らし方を創造しより良い社会を築くためのヒントを提供する機会を届けていきたいと考えています。

At “Lifestyle Design Center” or “Seikatsu –Kobo” in Japanese, we provide various programs focusing on how we live with better design of our fundamental issue of food, clothing and shelter, diversity of cultures of around the world, arts and crafts and advanced technology.

And since 2012, we add another aspect: “planetary design”. Without the wisdom of nature of our planet we won’t be able to make our living sustainable and efficient.
How can we solve problems of our nature resource, food, growing population, biodiversity and climate change?
We believe that design as a creative thinking will inspire our daily life and make our world better place to live.

生活工房の考え方
Our vision and mission

生活工房では展覧会やセミナー、ワークショップなど多様な事業を展開しています。そして、
その多岐に渡る事業は、下図のような考え方や目的を組み合わせ実施されています。
We produce various programs along with the vision and missions of each category.



目次 CONTENTS

02　生活工房フォトギャラリー
26　年間スケジュール
28　生活工房とは?
31　目次

Exhibition
［展覧会　事業報告］

34　日常／非日常展　世界の明日につながるデザイン
35　DAYS JAPAN写真展2013　地球の上に生きる
　　世界の未来をつくるために
36　眞田岳彦ディレクション・デザイン
　　「集う衣服展〜米に集い、集うことで豊かに生きる」
37　窓花　中国の切り紙
　　黄土高原・暮らしのフィールドワーク
38　インフォメーショングラフィックス展［エネルギー編］
39　中央アジアと日本「現代につづくシルク交流」展
40　レイ・リケット バッグ展 「BAG, ALL RIGHT!」
41　JAPONDER10　第10回留学生研究発表会
42　「渋産−made in shibuya product−」
　　橘倫央＋昭和女子大学橘研究室
43　布おもちゃを届けて　TOY工房どんぐりの30年
44　日本の伝統文化と歳時記　Vol.4
　　日本人の美意識としての“黒色”
45　7つの海と手しごと　Vol.4
　　ギニア湾とヨルバ族のアディレ
46　ワークショップ報告展　夏の子ども／
　　「森・里・海の連環」による豊かな海づくりレリーフジオラマ

Workshop
［ワークショップ　事業報告］

48　くらし・うるし・研究室
49　夏のNEWSなアニメーション!
50　14歳のワンピース
51　分解ワークショップ　家電製品の仕組みを探ろう!
52　中学生プラグインハイブリッド教室
　　次世代車を組み立てよう!
53　SUNDAY MORNING WORKSHOP
54　暮らしのセミナー＋ワークショップ
　　「マイ・エンディング・ノート」

Seminar / Event
［セミナー／イベント　事業報告］

56　「触れる地球」セミナー　地球目線で未来をデザインする
57　知の航海2013
58　朗読講座「豊かなことばの世界」

Local Community
［地域と市民活動　事業報告］

60　世田谷アートフリマ
61　おはなしいっぱい
62　NPO・市民活動のためのマーケティングセミナー／
　　市民活動防災ワークショップ
63　市民活動支援コーナー／
　　世田谷市民活動支援会議（ネッティ）
64　国際交流inせたがや2014／ギャラリーカフェくりっく

65　生活工房データベース
66　生活工房施設ガイド
68　生活工房のフライヤー
74　ワークショップ・フォトギャラリー
80　協力先一覧

生活工房の事業 Our Program

「展覧会」「ワークショップ」「セミナー／イベント」「地域と市民活動」の4つの事業を主として生活工房は運営されています。

Lifestyle Design Center provides four main figures of programs: Exhibition, Workshop, Seminar/Event and Local Community.

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

We are pioneering program of creative world of various designs, arts & crafts and intercultural experience into everyday life which will offer new and different view and value to share.

展覧会 Exhibition

新たな発見が暮らしを彩る

撮影＝永峰拓也

参加者が手や体を動かしながら「考え」「作る」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

Our design and creativity workshops for all ages offer fun and inspiring time to experience. In cooperation with exterior venue of specific function strengthen some of the programs.

ワークショップ Workshop

多彩なモノづくりを楽しむ

撮影＝植本一子

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れる様々な講演やトークイベントを実施しています。

Wide-ranging program of seminars and events for adults brings the academic field and creative world of design into our everyday life.

セミナー／イベント Seminar / Event

社会を知る、学びを楽しむ

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

Operating activity space and supporting programs for non-profit organizations, we encourage local citizen's networking with various people and exchange ideas for developing sustainable society.

地域と市民活動 Local Community

地域とつながる

事業報告

展覧会

撮影＝永峰拓也

撮影＝豊田 都

EXHIBITION

「もしもの時」に備えるデザイン

世界の明日につながるデザイン
日常/非日常展

会場風景。コペルニクのプロダクトをはじめ、日常と非日常を横断するデザインが紹介された

当たり前と思っていた《日常》が、突然《非日常》となる時。そんな〝もしもの時〟に備えたデザインと、活用法を考察することで、私たちが《非日常》においても《日常》の自分らしさを失くさないために必要なことを問いかけた展覧会。

坂茂氏（建築家）の「ＰＰＳ４紙管（パーティションシステム）」は、避難所に最低限の個人空間を創出し、眞田岳彦氏（衣服造形家）の「いつもを運ぶ衣服／プレファブコートＥＳ」は、区民と意見交換した活用法とあわせて展示した。支援の必要な途上国の《日常》にプロダクト・デザインでイノベーションを起こす米国ＮＰＯ法人コペルニクの活動も紹介。私たちが思う《日常》が、世界では必ずしも《日常》ではないという現実を知った。

また、自然の恩恵を受けつつ、その厳しさとも向き合うことで育まれた日本の食文化に目を向け、保存食や発酵食品など、伝承された《日常》の豊かさと《非日常》に備える知恵を学んだ。

DATA

開催日時 2013年3月15日（金）～4月1日（月）／11:00～19:00 **会場** ワークショップルームＡＢ **来場人数** 2,153名 **制作協力** 特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、米国ＮＰＯ法人コペルニク、眞田造形研究所、せたがや災害ボランティアの会、太陽工業株式会社、東京農業大学、野中和夫、坂茂建築設計＋ボランタリー・アーキテクツ・ネットワーク（ＶＡＮ）、特定非営利活動法人フードデザイナーズネットワーク、株式会社良品計画 **協賛** 理想科学工業株式会社

《関連企画》

1.ワークショップ「お守りＩＤカード入れをつくろう！」
開催日時 2013年3月23日（土）／14:00～16:00 **会場** セミナールームＡＢ **講師** 大図まこと（クロスステッチデザイナー） **参加人数** 27組（54名） **参加費** 1,000円

2.ワークショップ「途上国の生活を知ろう～あなたの100円を何に使う？」
開催日時 2013年3月24日（日）／14:00～16:00 **会場** セミナールームＡＢ **講師** 天花寺宏美（米国ＮＰＯ法人コペルニク日本支部事務局） **参加人数** 15名 **参加費** 600円

3.非常食カフェ「もしも」
開催日時 会期中の土日祝／12:00～18:00 **会場** ワークショップルームＡ **運営** 特定非営利活動法人フードデザイナーズネットワーク

30代男性の声

色々な視点で展示されていて興味深い内容だった。

EXHIBITION

私たちにできる第一歩は 世界の現状を受け止めること

DAYS JAPAN写真展2013　地球の上に生きる
世界の未来をつくるために

会場風景。カメラが目撃した“世界の過酷な現実”が突きつけられた

月刊誌『ＤＡＹＳ ＪＡＰＡＮ』が主催する２０１３年度「ＤＡＹＳ国際フォトジャーナリズム大賞」の受賞写真展である。〝人間と地球が抱える問題を鋭く伝えるフォトジャーナリズム作品〟を主題に、国内外から広く募り、審査、受賞した50点余作品を展示。ＴＶや新聞では切り込んだ報道はしないが、世界各地で立ちあがった市民たちの闘い、未だに解決されずにいる児童労働問題や難民、自然環境破壊など、この瞬間にも世界で起きているさまざまな問題を、現場で取材したフォトジャーナリストのコメントとともに紹介した。この写真展を通じて、厳しい世界の現状を受け止めることが、私たちにできる第一歩となるはずである。

会場では『ＤＡＹＳ ＪＡＰＡＮ』編集長・広河隆一氏による国内外の放射能汚染問題に迫った作品群も並び、同氏のトークイベントとともに、来場者の関心を集めていた。また関連企画として、反骨の報道写真家・福島菊次郎に密着したドキュメンタリー映画の上映会も開催した。

DATA

開催日時 2013年6月15日（土）～6月30日（日）／11:00～19:00 **会場** ワークショップルームＢ **来場人数** 1,382名 **共催** 株式会社デイズジャパン **企画** 株式会社世田谷社

《関連企画》

1.トークイベント「ジャーナリストとして伝えるべきこと」
開催日時 6月15日（土）／14:00～16:00 **会場** セミナールームＡＢ **講師** 広河隆一（『DAYS JAPAN』編集長） **参加人数** 60名 **参加費** 500円

2.映画上映会＋トーク「ニッポンの嘘～報道写真家 福島菊次郎90歳」
開催日時 6月23日（日）／12:00・16:00 **会場** セミナールームＡＢ **講師** 長谷川三郎（映画監督） **参加人数** 104名 **参加費** 一般1,000円、学生800円

40代女性の声

どうしたら世界は良くなるのでしょうか？

「プレファブコート〝ライス〟せたがや」

03

01

04

02

01 会場風景　02 ワークショップ「お正月の祝い飾りづくり」　03 トークイベント「衣食住から考える、集うことの幸福」　04 3F会場の「祝い集うデザイン展」

生命をつつむ未来繊維 vol.3　眞田岳彦ディレクション・デザイン

集う衣服 展　米に集い、集うことで豊かに生きる

人は古来〝集う〟ことで生きるための知恵を育んできた。集うことで社会や生活の基本を形成し、人とのつながりから安心感や幸福を得てきた。

２００７年より衣服造形家・眞田岳彦氏と〝本当に豊かな生活〟をテーマに、衣服を通じて地域の人々と展開してきたアート・デザインプロジェクト。今年度は、日本人の生活と心を支えてきた「米」と、暦でも収穫に感謝する大切な行事である「正月」をコンセプトに展覧会を開催した。

今回制作された「プレファブコート〝ライス〟せたがや」は、日本産稲穂を含有するフィルムシートを使用。切り込みを入れて、レインコートなど衣服として着用するほか、広げて敷く、物を包むなど、さまざまな使い方ができるので、災害や緊急時の活用が可能である。表面には毛筆で稲穂が描かれ、会場いっぱいに吊るされたシートが日本の原風景を思わせる《集う空間》となった。

DATA

開催日時 2013年12月20日（金）～2014年1月19日（日）／11:00～19:00　**会場** ワークショップルームＡＢ　**来場人数** 928名　**企画制作** 眞田造形研究所　**制作協力** 女子美術大学ファッションテキスタイル表現領域　**協力** 全国米穀販売事業共済協同組合、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構、日本米穀小売商業組合連合会、眞田塾、七月七日会　**参加協力** 女子美術大学、東北芸術工科大学、愛知県立芸術大学、昭和女子大学、専門学校桑沢デザイン研究所、太子堂八幡神社、株式会社ベネッセスタイルケア、岡さんのいえTOMO

《関連企画》

1.「祝い集うデザイン展」
開催日時 2013年12月20日（金）～2014年1月19日（日）／9:00～20:00　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 1,820名

2.トークイベント「衣食住から考える、集うことの幸福」
開催日時 12月20日（金）／18:30～20:30　**会場** ワークショップルームＡＢ　**講師** 岡副真吾（「金田中」若主人）、杉山享司（日本民芸館　学芸部長）、眞田岳彦（衣服造形家）　**参加人数** 56名　**参加費** 無料

3.ワークショップ「お正月の祝い飾りづくり」
開催日時 12月26日（金）／15:00～17:00　**会場** ワークショップルームＡＢ　**講師** 永井俊平（衣服作家／眞田塾）、関美来（染色作家／眞田塾）　**参加人数** 23名　**参加費** 1,000円

50代女性の声

先端繊維ながら、日本の伝統文化の美しさを感じた。

黄色の大地に咲く、紙の花々

03

01

04

02

01 清の時代のヤオトンのファザードも展示　02 農民の暮らしを描いた馮山雲さんの版画と、高鳳蓮さんの大型切り紙　03 切り紙の光と影の美しさ　04 関連イベントでは展覧会場を皆でフィールドワークした

窓花　中国の切り紙

黄土高原・暮らしのフィールドワーク

展覧会の舞台は中華人民共和国の黄土高原に位置する陝西省延川（せんせいしょうえんせん）。造形作家の下中菜穂氏・文化人類学者の丹羽朋子氏は、この地で２００８年からフィールドワークを重ねてきた。本展では、その調査・記録をベースに、この地域に伝わる「窓花（まどはな）」と呼ばれる切り紙の造形美と、黄土高原の暮らしを体感する展示空間を作った。切り紙の影絵や記録映像・音によるインスタレーションにより、来場者からは「実際に中国を旅したようだ」という感想が多く聞かれた。

紙は、柔らかくてすぐに破けてしまう脆い存在。しかし作り続けることで伝えてきた窓花には、何度でも再生する、続いていくという願いが込められている。東日本大震災から3年目の春、堅牢と思っていたものが壊れてしまうという体験をした私たちにとっても、それは大切なメッセージではないだろうか。

DATA

開催日時 2014年2月28日（金）～3月16日（日）／11:00～19:00　**会場** 生活工房ギャラリー、ワークショップルームB　**来場人数** 6,127名　**協力** 福岡アジア美術館、岩田温子、エロディー・ブロッソー、鷹觜麻衣子　**企画制作** 下中菜穂、丹羽朋子

《関連企画》

1.プレワークショップ「中国の靴の中敷づくり」
開催日時 2月9日（日）／13:00～16:30　**会場** ワークショップルームA　**講師** 下中菜穂（造形作家）、丹羽朋子（文化人類学者）　**参加人数** 12名　**参加費** 1,000円（小中高500円）

2.ギャラリートーク+ワークショップ「あの世とこの世をつなぐ紙のかたち」
開催日時 3月1日（土）／13:00～15:30　**会場** ワークショップルームA　**講師** 下中菜穂、丹羽朋子　**参加人数** 17名　**参加費** 1,000円（小中高500円）

3.ギャラリートーク+ワークショップ「窓花をつくろう」
開催日時 3月9日（金）／13:00～15:30　**会場** ワークショップルームA　**講師** 下中菜穂、丹羽朋子　**参加人数** 26人　**参加費** 1,000円（小中高500円）

4.ドキュメンタリー上映会「ヤオトン造りの小さな取決め」
開催日時 3月15日（土）／13:00～15:00、16：00～18：00
会場 ワークショップルームA　**ゲスト** 下中菜穂、丹羽朋子　**参加人数** 100名　**参加費** 500円

50代男性の声

窓花の造形とその暮らしがつながっているのがよく判る展示です。

EXHIBITION

『エネルギーとは何か』から考える

地球のいまを知る

インフォメーショングラフィックス展〈エネルギー編〉

東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故以降、エネルギーについての報道が盛んに行われ、現在も変わらず注視されている。2012年度に実施した〈環境編〉に続き、データや情報を分かりやすく視覚化するインフォメーショングラフィックを用いて、私たちが何気なく使っている電気をはじめ、改めて〝エネルギーとは何か〟を考察する場として本展は実施された。

太陽エネルギーをはじめ地球のエネルギー資源、世界のエネルギー消費量、人が食事で摂取するエネルギー、世田谷区の取り組みなどを紹介し、さらに足踏み発電や手回し発電の体験も一角に用意した。エネルギーの消費量を馬力（馬何頭分の力が必要か）で紹介するなど、来場者が想像しやすい例を示すほか、私たちの暮らしに結びつくテーマを選び、具体的にエネルギーを理解する工夫を凝らした。

目に見えないものを視覚化することで、初歩ではあるがエネルギーに関する理解を深めることができた。

DATA

開催日時 2013年4月5日（金）～ 5月6日（日）／9:00～20:00
会場 生活工房ギャラリー　**来場人数** 4,706名　**制作協力** 片野奈保子、淵上周平　**デザイン** グルーヴィジョンズ

30代男性の声

馬力に変換することでエネルギーの消費量の大きさが理解できる。

02

03

01

01 会場風景。子どもたちも見て楽しむ　02 マメ知識ではエネルギーの素朴な疑問を　03 カラフルな図で分かりやすく説明

EXHIBITION

美しい絹織物「アトラス」と現代のシルクロード

中央アジアと日本

現代につづくシルク交流展

世界第3位の繭生産国として伝統産業である養蚕が続く一方で、生糸や織物を生産する産業自体はさほど活発ではないという現実も抱える中央アジアの国、ウズベキスタン共和国。本展では、ウズベキスタンの伝統絹織物である「アトラス」と、アトラスを介し行われている日本との交流を紹介した。

会場では、美しいアトラスの反物とアトラスから作られたワンピースや小物などの製品を多数展示したほか、ウズベキスタンにおける織物産業の復興を目指す東京農工大学による技術交流プロジェクトや、民間団体であるリシタンジャパンセンターの日本語学校の活動などを紹介。人とモノを通した文化交流の有り様を体感できる会場では、幅広い年代の人々が長い時間をかけて熱心に鑑賞している姿が見られた。

関連イベントでは、技術交流プロジェクトの詳細など、ウズベキスタンとゆかりの深い方々のお話を多数の写真とともに紹介した。

DATA

開催日時 2013年5月17日（金）～6月30日（日）／9:00～20:00　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 7,721名　**協力** KANNOTEXTILE、国立大学法人東京農工大学、リシタンジャパンセンター

《関連企画》

1.講演「蚕（カイコ）がとりもつ技術交流―日本×ウズベキスタン＝世界にはばたくシルクをめざせ」
開催日時 6月9日（日）／14:00～16:00　**会場** ワークショップルームB　**講師** 川端良子（東京農工大学准教授／国際センター副センター長）　**参加人数** 24名　**参加費** 無料

2.トークイベント「布の魅力、人のつながり」
開催日時 6月15日（土）／13:30～17:00　**会場** ワークショップルームA　**講師** 菅野陽（KANNOTEXTILE）、大石一郎、加藤功甫・田澤儀高（Coc connection of the children 1本の糸で世界の子どもをつなぐ旅）　**参加人数** 60名　**参加費** 無料

3.KANNOTEXTILE販売会
開催日時 6月15日（土）・16日（日）／12:00～19:00　**会場** ワークショップルームA

50代女性の声

知られざる国際交流も興味深く拝見しました。

色鮮やかなアトラスの数々

EXHIBITION

ユーモラスでかわいい展覧会、再び！

レイ・リケット バッグ展

BAG, ALL RIGHT! バッグ・オーライ！

創作的で独特の世界観を持ち、作品モチーフも絵画や童話をはじめ、ちょっと気になる時事問題からもイメージを膨らませ、ユーモラスでポップなオリジナル・バッグを制作している作家のレイ・リケット氏。好評だった2007年春の展覧会「POP PUNK CAMP BAGS」以来の登場である。

今回は夏休み企画として、ワイワイと家族や友人同士、カップル、もちろん一人でも楽しめる愉快な展覧会となった。リケット氏のバッグには、彼女の日常的な視点から閃いたアイデアが随所に活かされている。目指しているのは、ハンカチとお財布が入るアート。ひとつひとつがハンドメイドで、基本的に同じ作品は作られない。バッグはモノを持ち運びするためだけの道具ではないというリケット氏のバッグへの愛情が、従来のバッグに捉われない自由な発想として見事に表現されている。

お気に入りのバッグを前に「これをもって美術館に行きたい！」。そんな想像も楽しい展覧会となった。

01 カラフルな作品が約50点並ぶ会場　02 持って出かけたい！「ドライブ」がテーマの作品　03 海外旅行や名画をモチーフにした作品も多数ある

DATA

開催日時 2013年7月17日（水）～8月25日（日）／9:00～20:00
会場 生活工房ギャラリー　**来場人数** 6,615名

30代女性の声

小学生の娘の夏休みお気に入りの場所になりました。

EXHIBITION

留学生ってどんな勉強しているの？

JAPONDER10
第10回留学生研究発表会

今年で10回目を迎えるJAPONDERは、世田谷で留学生の生活サポートをしている市民団体、SUNUS（サナス）と協働して開催している。〝学術で地域交流を〟という思いから始まったこの企画には、これまで世界40ヶ国88名の留学生が参加した。

今年も留学生たちの研究内容はバラエティに富み、関連イベントとして、留学生の国の家庭料理教室やドキュメンタリー上映会も行った。料理教室では「食」を通して、その国の主たる宗教の禁忌や生活文化も知ることができる。上映会ではコンゴ社会を描いた映画『ベンダ・ビリリ！〜もう一つのキンシャサの奇跡』を上映。音楽と仲間とともに逞しく生きるコンゴの人々の精神性に触れることができた。

留学生たちはこの日本で何を感じ、何を考え、何を学んでいるのか。留学生という窓を通して世界を知り、また彼らを鏡にして、私たちが知り得なかった日本を知ることができる。

01 研究の内容を分かりやすくまとめたパネル展示　02 ラマダン月の料理を習ったアルジェリア料理教室　03 発表会後は、世界のお茶とお菓子を囲んで交流会も行った　04 医療の政策について、祖国の社会的課題を研究するパトリックさん

DATA

開催日時　2013年9月7日（土）～10月6日（日）／9:00～20:00（最終日は17:00まで）　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 3,712名　**共催** SUNUS（サナス）

《関連企画》

1.留学生による研究発表＆交流会上映会
開催日時 10月5日（土）・6日（日）／13:00～16:00　**会場** ワークショップルームB　**講師** 留学生4名　**参加人数** 78名　**参加費** 無料

2.学生の国の家庭料理をつくろう～アルジェリア編
開催日時 9月28日（土）／11:00～15:00　**会場** ワークショップルームA
講師 Farid SAIDI　**参加人数** 17名　**参加費** 1,000円

《参加留学生と研究テーマ》

「国境を超えたオンラインショッピングにおける消費者行動」 Vanessa Rocio BRACAMONTE LESMA（ペルー共和国／総合研究大学院大学）・**「発酵ゴボウの新たな機能性の解明」** Vivi Novita SITANGGANG（インドネシア共和国／広島大学大学院）・**「実世界を撮影した球状ビデオ映像を使ったドライブシュミレーターの開発」** Farid SAIDI（アルジェリア民主人民共和国／東京大学大学院）・**「コンゴ民主共和国の医療現場におけるHIV/AIDSの予防と補償に関する政策」** Patrick Mokondoko BEHUHUMA（コンゴ民主共和国・明治大学大学院）・**ポスター、フライヤーデザイン**　Yunjin JEON（大韓民国／多摩美術大学大学院）

20代男性の声

日本にいるとマヒしてしまうが、自分の国を良くしようという留学生の意欲に感銘を受けた。

昭和女子大学生とアクリル職人のコラボレーション

第３回 世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門受賞展覧会

渋産 ―made in shibuya product ― 橘倫央＋昭和女子大学橘研究室

世田谷区では次代の文化・芸術分野を担う若手アーティストの支援として『世田谷区芸術アワード〝飛翔〟』を設けている。

今年度、生活工房では《生活デザイン》部門を受賞した橘倫央氏と昭和女子大学環境デザイン学科・橘研究室の「渋産（Shibusan）」プロジェクトの活動を支援した。このプロジェクトは、地域に散在する職人の技のリサーチを行い、学生の自由な発想から新しいデザインを生みだそうという試みだ。

今回はアクリル素材の魅力がテーマ。会場には学生たちが制作したプロダクト30作品を展示した。作品は、指輪、イヤリングなどのアクセサリーから、写真立て、照明器具、ペーパーナイフなどの生活雑貨まで幅広い。どれもアクリルという素材と向き合い作品づくりに挑んだ学生たちのアイデアが活きていて、加工の難しいアクリルの性質に逆らうことなく、高い透明感をもつ美しいフォルムに仕上げる職人の技とのコラボレーションを楽しめる展示となった。

DATA

開催日時 2013年10月11日（金）～10月27日（日）／9:00～20:00　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 2,304名　**共催** 世田谷区　**企画制作** 橘倫央＋昭和女子大学橘研究室　**協力** 有限会社アクリアル、小川木材株式会社、山田照明株式会社

60代女性の声

アクリル素材と学生の新しいアイデアに可能性を感じた。

02 色彩とともにその表現も自由である

03 展示台下からも照明で作品を照らしだす

01 透明感のある軽やかな作品が並んだ

子どもの笑顔を思いながら作られた布おもちゃたち

布おもちゃを届けて

TOY工房どんぐりの30年

障がい児のために布製のおもちゃを作り続けている世田谷のボランティアグループ「ＴＯＹ工房どんぐり」。その30年のあゆみを追いながら、作り手の想いとともに作品を紹介する展覧会を開催した。

ＴＯＹ工房どんぐりは１９８３年に活動を始め、制作したおもちゃを施設などに届ける中で、一般の教材や遊具には障がい児が安心して遊べるものがほとんどないということに気づいた。現場の声から作品を作ることも多くなり、その種類は実に２００を超えている。

布を主体に作られているおもちゃは、子どもたちが意外な遊び方をしても壊れにくく、安全だ。また、おもちゃで遊ぶうちに身支度などの日常生活で必要なことが自然と身につくように制作されている。認識しやすいシンプルな形と明るい色使い、飽きさせない工夫が随所に散りばめられたおもちゃは、あらゆる人が楽しめる、ユニバーサルデザインそのものだ。本展では作り手へのインタビュー形式の解説をつけて20作品を紹介。この展覧会が多数のメディアに取り上げられたことも契機となり、ＴＯＹ工房どんぐりは社会に感動を与えた無名の市民を表彰する「シチズン・オブ・ザ・イヤー２０１３」を受賞した。

DATA

開催日時 2013年11月1日（金）～11月10日（日）／9:00～20:00　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 3,325名　**共催** ＴＯＹ工房どんぐり　**展示会場撮影** 後藤洋平

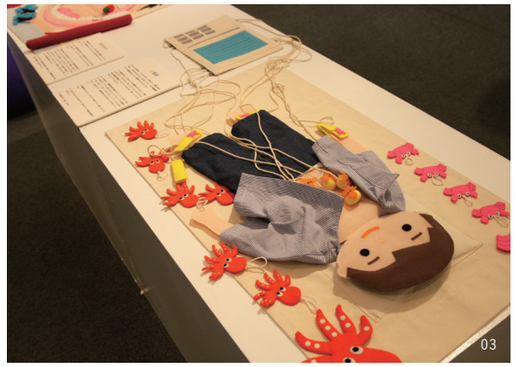
《関連企画》

体験会「布おもちゃ100点大集合！」

開催日時 11月9日（土）／10:30～17:30　**会場** ワークショップルームＢ　**参加人数** 290名　**参加費** 無料

女性の声

地域の中に溶け込むように活動してきた人たちがいることを知り、嬉しく思いました。



03

01

04 体験会では、広い会場でのびのびと遊んだ

02 会場で説明するＴＯＹ工房どんぐりのスタッフ

01 「玉入れ」「さかなつり」は会場でも大人気　03 遊ぶことで心電図への恐怖心が薄らぐおもちゃ

伝統色〝黒〟と日本文化の関係を考える

日本の伝統文化と歳時記　vol.4

日本人の美意識としての“黒色”

古来、日本人は四季の移ろいを生活に取り入れ、自然と共存してきた。ただ生活のためだけではない、見た目の心地よさや美しさ、周辺環境との調和など、時代ごとに理にかなった知恵がある。本展ではシリーズで日本人の心の文化を再考してきた。4回目のテーマは「黒」。

冠婚葬祭の場面や昨今の流行として身につける「黒」。黒装束の身分など、日本人の暮らしの中で「黒」はいくつかの意味を持つ。伝統的な染色織物や陶芸の世界では、泥や炭などの素材を最大限に活かして独自に表現された「黒」がある。

会期中のセミナーでは、江戸時代に庶民の間でも流行した泥染め手法の絹織物「黒八丈」を現代に復活させた森博氏を講師に招いて、その制作過程と、先人たちから伝承された心の豊かさについてお話しいただいた。

時代の移行とともに、日本人の美意識は「他者への配慮」「遊び心」などさまざまな要素と融合しながら現在へと伝承されている。

DATA

開催日時 2013年11月15日（金）～12月15日（日）／9:00～20:00　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 2,644名　**企画協力** 有限会社アイ・エイチ ファクトリー　**協力** 糸工房「森」、株式会社空間構造、お茶の水「おりがみ会館」

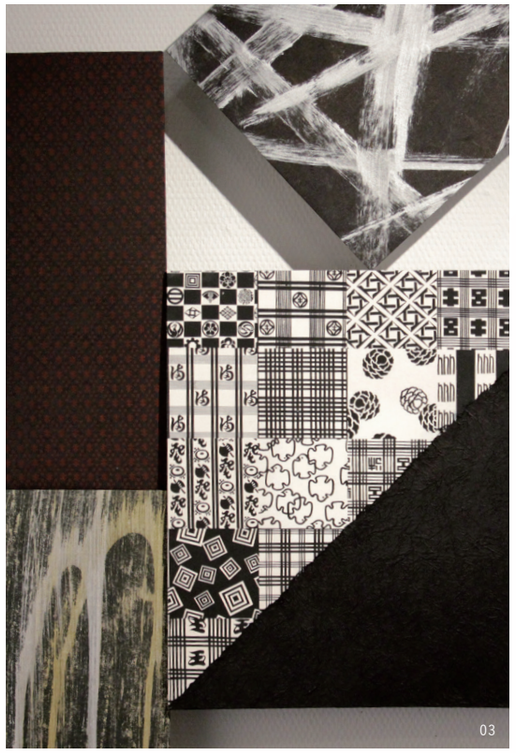
《関連企画》

セミナー「“幻の黒”黒八丈にみる絹織物の泥染め手法」

開催日時 12月1日（日）／14:00～16:00　**会場** セミナールームAB　**講師** 森博（糸工房「森」主宰）　**参加人数** 31名　**参加費** 1,000円、学生800円

70代女性の声

黒という色のインパクトを再認識しました。


03

01

02

01 会場では《黒色の変遷》を年表でも紹介　02 黒の食文化として健康効果を検証　03 江戸の柄や文様、色の組み合わせ例を壁面で紹介

褐色の肌と赤土の大地を彩る、海のような藍

7つの海と手しごと　第4の海

ギニア湾とヨルバ族のアディレ

藍染めというとアジアのイメージが強いが、現存する最古の藍染めは、紀元前2000年のエジプトのミイラを包んだ布。アフリカでははるか昔から、防腐・防虫効果の高い染料として、藍が用いられてきた。中でもヨルバ族の藍染めは、手描きや絞り染めで作られる独特な模様の美しさ・細かさで知られる。手描きのほうは、日本だと米で作った糊で模様を描くが、ヨルバ族ではキャッサバ芋の糊で描く。どちらも主食でもあるというのが面白い。

描かれる意匠は、鳥や魚、樹木などの自然物や、傘・スプーンなどの日用品までさまざま。女性のラップドレス用に作られ、その技術は母から娘へ受け継がれてきたが、近年は衰退の一途にある。

本展では、世田谷に本店を構えるギャラリーショップ「東京かんかん」のコレクションから、1980年代のアディレの名品8点と、ヨルバ族の扉やビーズ細工、衣服や仮面などを展示し、その生活文化を伝えた。また、アディレを後世に残そうと活動を続けるヨルバ族出身の藍染め作家や、現地でヨルバの人たちと藍染め商品を製作している日本人についても紹介した。

DATA

開催日時 2014年1月25日（土）～2月23日（日）／9:00～20:00　**会場** 生活工房ギャラリー　**来場人数** 7,823名　**特別協力** 株式会社東京かんかん　**協力** 株式会社道祖神、ちいさな藍美術館、山田よしえ、Henry John Drewal、SOLOLA　**展示会場撮影** 永禮賢

《関連企画》

1.トーク「西アフリカの藍染めについて」

開催日時 1月25日（土）／14:00～15:30　**会場** ワークショップルームA　**講師** 小川弘（アフリカ美術研究家／株式会社東京かんかん代表取締役）　**参加人数** 53名　**参加費** 500円

2.上映会「ブルーアルケミィ ―藍の物語」

開催日時 2月1日（土）／14:00～15:30　**会場** ワークショップルームA　**参加人数** 63名　**参加費** 500円

3.ワークショップ「ヨルバ式絞り染めで作る藍のテーブルウェア」

開催日時 2月15日（土）／14:00～16:00　**会場** ワークショップルームA　**講師** 山田よしえ（アーティスト）　**参加人数** 18名　**参加費** 2,000円

40代女性の声

人間の美しさを感じる展示だと思う。

美しい藍色の布が会場を埋めつくす

事業報告

ワークショップ

撮影＝ゆかい

EXHIBITION

夏の子どものきらきら・ドキドキ・ワクワク

ワークショップ報告展

夏の子ども

２０１３年の夏休み、生活工房では、「『触れる地球』を体感しよう！」「くらし・うるし・研究室」「14歳のワンピース」「おはなしいっぱい」「夏のＮＥＷＳなアニメーション！」の５つの子ども対象のワークショップを実施した。その記録写真や映像を通して、内容や現場の空気、子どもたちの表情や眼差し・ドキドキ・ワクワクを伝える報告展を開催した。「子どもとデザイン」という視点の、独自のプログラムと成果を、参加者と保護者だけでなく、広く一般に伝える機会となった。

会場風景

DATA

開催日時 2014年3月23日（日）～3月30日（日）／9:00～20:00
会場 生活工房ギャラリー
来場人数 2,510名
協力 ゆかい

40代男性の声

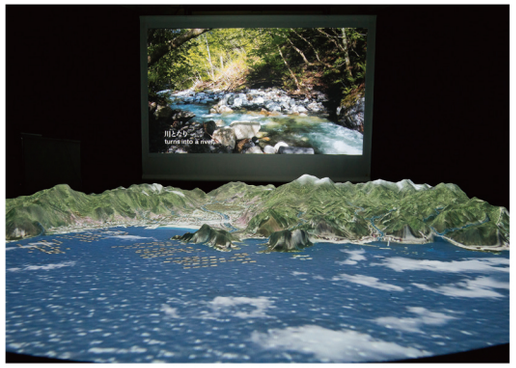
作るよろこびと発見があってよい。

自然に学び、自然とともに生きること

「森・里・海の連環」による豊かな海づくりレリーフジオラマ

２０１２年、韓国麗水（ヨス）市で開催された「２０１２麗水国際博覧会」の日本館に展示されたレリーフジオラマが終了後、せたがや文化財団が引受先となりキャロットタワー内の八角堂に設置された。

スクリーン上では、森と海とのつながりについて、日本の四季折々の光景を空撮した映像と自然を守り育てる人々の様子を紹介。同時進行で、海辺、里、川、山々の起伏に富んだジオラマには自然の循環を描いた映像が映し出される。美しい音楽も印象的な映像作品。



レリーフジオラマの一場面

DATA

開催日時 2013年4月～2014年3月
会場 八角堂（キャロットタワー2F）
来場人数 245名

30代男性の声

日本は海に囲まれているだけでなく、たくさんの山や森が身近にあることを意識しました。

うるしのふしぎを大解明！

01 ウエルカムドリンクは漆器のコップで　02 生漆の色の変化をカラーチャートを使って観察　03 輪島塗の21工程の実物を見ながら、材料や技法を学ぶ　04 子どもたちが木地を磨き、輪島の職人が仕上げた拭き漆のスプーン

夏の子どもワークショップ 2013

くらし・うるし・研究室

天然の塗料として縄文の昔から使われてきたうるし。人間は自然の恵みから漆芸（しっげい）を生み出し、暮らしの道具をつくってきた。

ワークショップのはじめに、石川県の輪島塗の21工程から、漆器に込められた手間と時間を教えてもらった。その後、実験①では、生漆を異なる温湿度の条件下において硬化実験を行い、予測・観察・結果の考察を経て、「固まるためには湿度が必要」というううるしの不思議を学んだ。さらに実験②では、漆器・陶器・金属などの器にお湯と氷を入れて熱伝導率を調べ、どの器にどんな料理が適しているのかを考えた。

子どもたちが木地を磨いたスプーンには、専門スタッフがうるしを塗り、その後、輪島の職人が仕上げて一人一人に届けられた。

彼らが大人になって生活の道具を選ぶとき、自らの暮らしをつくっていくときに、多様な選択肢を持ち、そこから本物を選ぶ目を育てることが、このワークショップの大きな目的である。

DATA

開催日時　2013年7月27日（土）／10:00〜16:00　**会場**　ワークショップルームA　**講師**　桐本泰一（輪島キリモト）、増田多未（コド・モノ・コト）　**対象**　小学3年生〜6年生　**参加人数**　18名　**参加費**　1,000円　**協力**　sitka 佐々木真由子

小学３年生男子の保護者

実際に輪島塗を仕事にされている方が教えてくれたのがよかった。

本物のスタジオ収録で本格ニュースアニメーション！

01 みんなのアイデアをくじ引きでシャッフル　02 撮影しながらさまざまな工夫が生まれる　03 キャスターとコメンテーターのやりとりもユーモア満載　04 モニターを見守る、裏方の仕事も肝心

夏の子どもワークショップ 2013

夏のNEWSなアニメーション!

今年は生活工房を飛び出して、区内にあるNHK放送技術研究所を舞台に開催した。今年のアニメーションのテーマは「夏のおもしろ事件！」。いつ・どこで・だれが・なぜ・なにをしたか、のアイデアを出し合い、それをシャッフルして組み合わせることで、奇想天外な物語が生まれた。小道具を作り、演じるのは子どもたち。撮影にはiPadを用い、少しずつ動いては撮り、コマ撮りの手法で実写アニメーションを制作した。

その後は、アナウンサーの研修スタジオで、ニュースキャスター、コメンテーター、カメラマン、プロデューサーを分担してニュース番組を収録。本物の機材やセット、プロの現場の空気に、子どもたちの緊張感も最高潮に達した。最後は保護者を招いて、ニュースアニメーションの完成上映会を行った。

プロの仕事を体験すること、その緊張感によって、子どもたちの力が引き出されることを目の当たりにする現場であった。

DATA

開催日時　2013年8月24日（土）・25日（日）／10:00〜16:00（各1日完結）　**会場**　NHK放送技術研究所　**講師**　小柳貴衛（アニメーション作家）　**対象**　小学3年生以上　**参加人数**　44名　**参加費**　500円　**共催**　NHK放送技術研究所　**協力**　東京工芸大学

小学５年生女子の声

コマ撮りの大変さを実感できた。本物と同じように撮影をして貴重な経験ができた。

14歳の心模様を1枚のワンピースに写す

夏の子どもワークショップ 2013

14歳のワンピース

14歳の女子を対象としたテキスタイルデザインワークショップ。自分の好きな歌詞やポエムなど、心に響く言葉を、日常から採集する宿題からワークショップは始まる。1日目、講師と対話しながら、言葉に重ねた思いや感情をたどり、折り紙で色や形に表していく。そしてそれを下図に、渋紙を切り抜いて型染めの型紙を作る。2・3日目、インクを調合してオリジナルカラーを作り、シルクスクリーンの技法で布にプリントしていく。

ここまでの段階で、心→言葉→心→折り紙→型紙→布に転写、といくつもの「変換」の作業が行われ、その工程の中で、14歳の心模様はよりくっきりとした輪郭を持ち始める。

完成した布は専門の工場でワンピースに仕立て、後日、記念の写真撮影会も行った。緊張の表情と眩しい笑顔。14歳のワンピースを身にまとった「14歳の私」。その姿を、未来の自分に届けるような気持ちで、カメラの前に立ってもらった。

02

01

01 折り紙や色セロファンをつかって色と形をレイアウトしていく　02 自分と向き合った3日間。オリジナルテキスタイルが完成

DATA

開催日時 2013年8月9日（金）・10日（土）・11日（日）／11:00〜17:00　**会場** ワークショップルームA　**講師** 飛田正浩（spoken words project）　**対象** 中学2年生女子　**参加人数** 延べ45名（15名×3日間）　**参加費** 4,000円　**協力** ゆかい

-中学２年生女子の声

服を作る大変さと、自由に表現する難しさが分かった。とても楽しかった。

分解することはモノづくりの原点

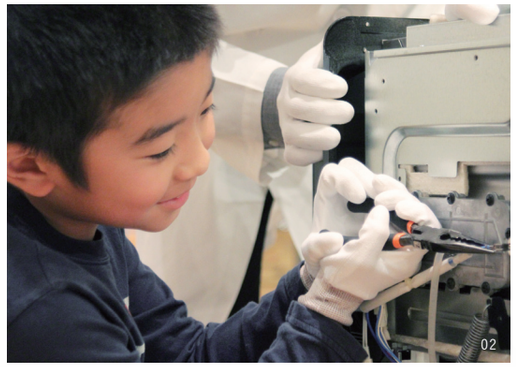
子どもワークショップ

分解ワークショップ　家電製品の仕組みを探ろう!

家電製品（今年度は、ノートパソコン、クリーナー［掃除機］、電子レンジ、保温釜の4種類）の仕組みについて、メーカー立ち合いのもと「分解」することで体験学習するワークショップである。いつも使っている家電製品でも、その仕組みまで理解している人は多くないはず。

「分解で大切なのは製品をよく観察すること。ひとつでもいいので新しい発見を!」。専門スタッフは、白衣を着て「分解博士」として参加者をサポートする。指導を受けた子どもたちも上手に工具を操りながら、その仕組みを探っていくと「なるほど!」「意外! こんな仕組みなのか!」という発見に出合える。電子レンジを分解しながら「これは、熱を閉じ込めるための部品」、「こっちは熱を逃がすための仕掛けだよ」といった解説を聞く子どもたちの表情も真剣である。

分解することはモノづくりの原点。製品に込められた工夫を知るほど、子どもたちはモノづくりに対する理解と愛着を深めていった。

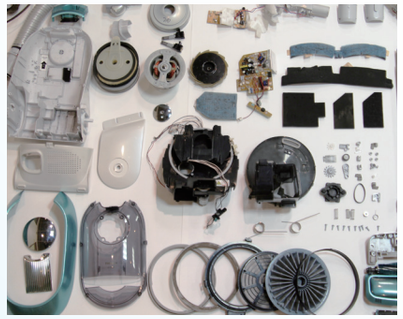


02

03

01

01 クリーナーの構造に興味津々　02 電子レンジの分解は力も必要!　03 分解して気づいた点を話し合おう!



DATA

開催日時 2013年11月17日（日）／13:30〜17:00　**会場** ワークショップルームAB　**講師** 株式会社東芝　**対象** 小学3年生以上の親子2人1組　**参加人数** 27組（54名）　**参加費** 1,000円　**協力** 株式会社東芝

-小学５年生男子の声

いつも使っていたけど、知らないことばかりでした。

自動車の視点でエネルギーについて考えよう!

完成したPHVバギーの試走を記念して

中学生プラグインハイブリッド教室
次世代車を組み立てよう!

現代人の生活には欠くことができない自動車について、次世代を担う中学生を対象に、地球環境・エネルギー問題とあわせて体験学習するワークショップ。

これまでも電気自動車やハイブリッドバギーなど、自然環境に配慮したさまざまな次世代車を組み立ててきたが、今年度のテーマは「プラグインハイブリッド(PHV)」。PHVとは、自宅の電源からバッテリー充電ができるハイブリッドカーのことで、電気自動車とハイブリッドカー両方の良さを取り入れた次世代車として注目されている。

教室では、地球環境問題、エネルギー問題の現状を学習しながら、企業の技術者や専門家を迎えて、PHVの構造と機能について解説していただくとともに、未来に向かう、私たちの生活に求められている変化についても考察した。

最終日は、参加者自身で組み立てたPHVバギーの試走も行い、充実した内容の3日間となった。

DATA

開催日時 2013年10月27日(日)／10:00〜16:00、11月10日(日)／13:00〜16:00、12月8日(日)／8:00〜17:00　**会場** 東京都立総合工科高等学校(10月27日・11月10日)、大磯プリンスホテル駐車場(12月8日)　**講師** 舘内端(日本EVクラブ代表)ほか　**対象** 世田谷区に在住および在学の中学生　**参加人数** 延べ75名(25名×3日間)　**参加費** 3,500円　**共催** 東京都立総合工科高等学校　**協賛** トヨタ自動車株式会社　**企画制作** 日本EVクラブ

-中学2年生男子の声

免許を取るためにも、もっと環境問題について詳しくなりたい。

日曜の朝をもっと贅沢に

01 第1回は朝の定番「コーヒー」 02 第2回目は「スツール」 03 慣れない作業も助け合いながら 04 第3回は「ワイン」。朝からほろ酔いで楽しんだ

SUNDAY MORNING WORKSHOP

〝朝活〟が注目されるなど、朝の時間の使い方への意識が高まっている。生活工房では、日曜日を朝から楽しく過ごし、休日を有効に使うことを目的としたワークショップを今年度から実施した。

朝の定番「コーヒー」(5月)、日曜大工でスツールを作る「ウッド・クラフト」(9月)、休日だから愉しめる「ワイン」(11月)と、今年度はテーマを変えて3回実施。時間は各回10時から12時半までの間に設定、午後に予定を入れやすくし、内容も初心者が気軽に楽しめるものにすることで、10代から70代までが参加した。特にコーヒーとワインは関心が高く、高倍率での抽選となった。

また今回のワークショップは、三軒茶屋駅至近という施設の立地を活かし、各テーマとも2〜3回行い、生活工房に通う内容とした。参加者には施設の特徴や事業について知ってもらう機会となり、スタッフとのやりとりを通じて、より身近な施設として感じてもらえることになった。

DATA

①朝のコーヒー・ワークショップ
開催日時 2013年5月12日(日)、19日(日)、26日(日)／10:00〜11:30　**会場** ワークショップルームA　**講師** OBSCURA COFFEE ROASTERS　**参加人数** 延べ98名(34名、32名、32名)　**参加費** 3回通し3,500円、1回1,500円
②朝のウッド・クラフト・ワークショップ
開催日時 2013年9月1日(日)、8日(日)／10:00〜12:30　**会場** ワークショップルームA　**講師** 白鳥浩子(デザイナー)　**対象** 中学生以上　**参加人数** 延べ40名(20名、20名)　**参加費** 5,000円　**協力** sakumotto
③朝のワイン・ワークショップ
開催日時 2014年1月26日(日)、2月2日(日)／10:30〜12:00　**会場** ワークショップルームA　**講師** 沼田利也(「リカーランドなかます」店長)　**対象** 20歳以上　**参加人数** 延べ56名(29名、27名)　**参加費** 3,000円

30代男性の声

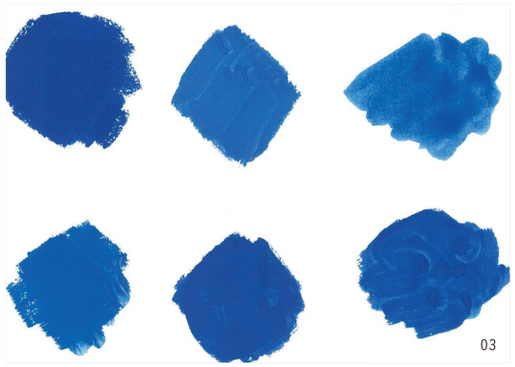
普段は布団の中にいる日曜の朝も、早起きしてでも行きたくなる内容で、有意義な休日となった。

事業報告

セミナー／イベント

撮影＝あらいひろし

綴り始めよう、これまでのこと、これからのこと



01 さまざまな事例を交え、わかりやすく語る井上氏　**02** リングを綴じて、FOLK notebooks製のノートが完成　**03** 楽しかった学生時代を思い制服の色を再現しようとした人も　**04** バーテンダーのようにシェーカーでインクを作る石丸氏

暮らしのセミナー＋ワークショップ

マイ・エンディング・ノート

自分にもしものことがあったとき、残された人のために大切なことを書きとめておく〈エンディングノート〉。とくに震災以降年代を問わず、自身の生き方を見つめるきっかけとしても注目されている。

2日連続の本講座では、1日目に、エンディングノートの草分け的存在である『遺言ノート』の著者・井上治代氏による講義を開催。「葬儀の方法や相続のことなど書かなければいけないことはたくさんあるけど、両親の思い出やパートナーへのメッセージ、人生の苦楽などを書き残すことのほうが、これからの人生を見つめる上でも大切」と井上氏。その後FOLK notebooksによる、表紙や中紙などを自由に組み合わせたオリジナルノート作りをしながら、自分の記憶の中にある大切な「色」を絵の具で再現することを試みた。

2日目は、1日目に作った絵の具を、インクブレンダー・石丸治氏と万年筆用インクに仕立て、インクの名前もつけた。何から手をつけたらいいかわからないという方が多い中、オリジナルのノートとインクを作ることで、自分らしく筆を取るきっかけとなった。

DATA

開催日時　2013年11月30日（土）／14:00〜17:00、12月1日（日）／10:30〜16:30の間でひとり30分程度　**会場**　ワークショップルームA　**講師**　井上治代（東洋大学ライフデザイン学部教授）、FOLK notebooks、石丸治（セーラー万年筆 インクブレンダー）　**参加人数**　延べ36名（18名×2日間）　**参加費**　3,000円　**協力**　セーラー万年筆株式会社

30代男性の声

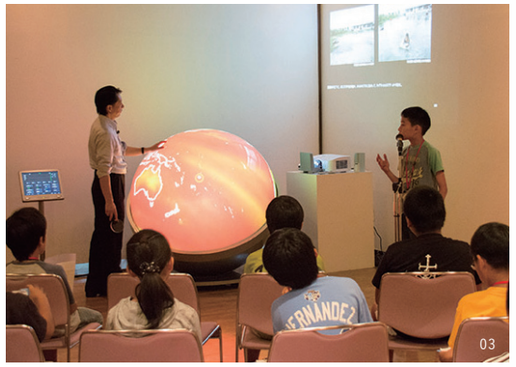
インクとノートづくりに惹かれて参加したが、死について考えるきっかけになった。

SEMINAR / EVENT

デジタル地球儀を使ったセミナー&ワークショップ

01

02


03

01 リアルタイムの情報が映し出される「触れる地球」 02 子どもたちも自由に操作を楽しむ 03 ワークショップでは、参加者それぞれの視点で地球について語ってもらった

「触れる地球」セミナー

地球目線で未来をデザインする

「触れる地球」は、生きた地球の様子が、手に取るようにわかる世界初のデジタル地球儀である。リアルタイムの気象情報などが随時更新されて、直径約1メートルの球体に写しだされる。本セミナーでは開発者・竹村真一氏が、最新科学に基づく、新たな地球の見方を、さまざまな角度から解説。地球がいかに生命に満ちた惑星であるかを語った。

また、今年も子ども対象（小学5年生〜中学生）ワークショップを開催。ここでは子どもたちが「触れる地球」の操作に挑戦した。1日目、子どもたちが「地球について気になること」を質問として投げかける。竹村氏は会話の中でその質問に答えてくれる。次々と語られる地球や宇宙の話を、子どもたちは熱心に吸収する。2日目になると、子どもたちは地球の魅力や面白さを自分の言葉で発表できるようになっていた。私たちは次の世代に地球の危機を語るだけではなく、もっと地球の尊さに目を向けるべきかもしれない。

DATA

①触れる地球セミナー「地球目線で未来をデザインする」
開催日時 2013年7月20日（土）／17:00〜19:00 **会場** ワークショップルームB **講師** 竹村真一（京都造形芸術大学教授、株式会社シン・デザインコープ代表） **参加人数** 21名 **参加費** 一般1,000円、大学生800円、高校生以下無料
②子どもワークショップ「触れる地球を体感しよう！」
開催日時 2013年7月20日（土）・21日（日）／14:00〜16:00 **会場** ワークショップルームB **講師** 竹村真一 **対象** 小学5年生〜中学生 **参加人数** 90名（45名×2日間） **参加費** 無料

小学6年生女子の声

夏休みは、地球についてもっと研究したいです。

SEMINAR / EVENT

分野を横断し〝地域〟を考える

03

01

04

02

01 平川克美氏 02 保坂和志氏（左）と湯浅学氏 03「ふゆまつり」の会場風景 04 西川亮氏（左）と石田エリ氏

知の航海2013

大人の知的好奇心を満たす連続セミナー。4年目となった今年度は「地域」をテーマに4本の講座を行い、また、昨年度に続き〝お祭り〟イベントも実施し、地域交流の場とした。

7月に行った1回目は、『小商いのすすめ』の著者である平川克美氏を迎え、グローバルよりローカルな視点で考える〝小商い〟についてお話しいただいた。12月の「ふゆまつり」では、建築家の石山修武氏がこれまで実践してきたまちづくりについて、また、作家の保坂和志氏と音楽評論家の湯浅学氏の対談では、地域の観察者としてのそれぞれの視点や創作の背景が語られた。「空き地農業」と題した3回目は、大阪市・北加賀屋で実施されている「みんなのうえん」の農園を通じた地域づくりを紹介した。

経済、建築、文学、農業とさまざまな角度から地域に思いを巡らせ、希薄化する都市における地域のつながりを再考する機会となった。

DATA

①人口減少社会と小商い
開催日時 2013年8月31日（土）／14:00〜16:00 **会場** セミナールームAB **講師** 平川克美（リナックスカフェ代表、立教大学特任教授） **参加人数** 92名 **参加費** 1,000円
②ふゆまつり まちのまつりごと
開催日時 2013年12月7日（土）・8日（日）／11:00〜18:00 **会場** ワークショップルームAB **参加人数** 約400名 **参加費** 無料
《関連企画》
1.講演「開発とまちづくり―世田谷式生活はありうるか？」
開催日時 2013年12月7日（土）／15:00〜17:00 **会場** ワークショップルームB **講師** 石山修武（建築家） **参加人数** 50名 **参加費** 1,000円
2.講演「失われる情景を見て聴き書く」
開催日時 2013年12月8日（日）／15:00〜16:30 **会場** ワークショップルームB **講師** 保坂和志（小説家）、湯浅学（音楽評論家） **参加人数** 60名 **参加費** 1,000円
③空き地農業 都市・農・人の新たなつながり
開催日時 2014年2月8日（土）／14:00〜15:30 **会場** セミナールームAB **講師** 西川亮（NPO法人Co.to.hana）、石田エリ（『ecocolo』編集長） **参加人数** 44名 **参加費** 500円

50代女性の声

空き地を耕すという発想が新鮮だった。

事業報告

地域と市民活動

撮影―松岡一哲

朗読発表会には、参加者の知人なども訪れ盛況となった。

朗読講座

豊かなことばの世界

ふだん気にかけることもなく、使っている「ことば」。日本語の達人たちが綴った文章を朗読することで、その魅力をじっくり探り、味わう企画である。

ガイド役を務めるのは、声の出し方や読み方のプロであるNHK日本語センターのアナウンサー。少人数制の丁寧な指導は、初心者、リピーター双方から根強い支持を受けている。

一年の締めくくりには、各回の受講者が集まって発表会を行った。読み手はもちろん、聞いている方も真剣そのもの。心地よい緊張感の中、会場にいる全員が、日本語の美しさ、豊かさを実感した時間となった。

［取り上げた作品］
夏目漱石『文鳥』『吾輩は猫である』　浅田次郎『地下鉄に乗って』
山元加津子『きいちゃん』　吉川英治『宮本武蔵』
杉みき子『夜のくだもの屋』　芥川龍之介『杜子春』『鼻』
宮沢賢治『銀河鉄道の夜』　太宰治『富嶽百景』
新美南吉『ごん狐』『花のき村と盗賊たち』

DATA

開催日時　年4回（4月期、7月期、11月期、1月期）・各4講座（水曜午前・午後、木曜午後、金曜午後）　**会場**　セミナールームA　**講師**　一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター　**対象**　一般　**参加人数**　延べ628名　**参加費**　20,000円（4回分）、アーツカード会員18,000円　**共催**　一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

《関連企画》

朗読発表会

開催日時　2014年3月9日（日）13:30～16:00　**会場**　セミナールームAB　**参加人数**　68名　**参加費**　無料

70代女性の声

朗読する一人一人の人生観を感じました。年に一度のドキドキ感、素晴らしいひとときです。

20回を迎えた、ものづくりの祭典！

世田谷アートフリマ

生活工房の春・秋の恒例イベントとして毎回約５０００名の来場者を数える「世田谷アートフリマ」。区内で活動する手づくり作家たちの発表の場として、また、出展者と来場者の交流の場として貴重な機会となっている。

２０１３年の秋で20回を迎えた本イベントだが、出展申込数の増加にともない会場レイアウトを見直し、出展ブース数を増加させたほか、ブース料金も一部改定し、希望者がより参加しやすい環境づくりに取り組んだ。主にワークショップ・コーナーとしてあった3階にも、新たにブースを設置するなど、来場者が3階から5階まで余すところなく楽しんでもらえるような動線づくりも考慮した。また、20回記念イベントとして、アートフリマから生まれたキャラクター「せたがやじん」の握手会を実施。子どもから大人まで多くの人たちに取り囲まれる賑わいをみせた。

次年度以降も出展者・来場者のそれぞれが楽しめ、交流できるイベントへと工夫を凝らしたい。

DATA

開催日時 ［Vol.19］2013年4月20日（土）～4月21日（日）
［Vol.20］2013年9月21日（土）～9月22日（日）／11:00～18:00　**会場** ワークショップルームＡＢ、セミナールームＡＢ、市民活動支援コーナー　**来場人数** ［Vol.19］約6,000名
［Vol.20］約5,000名　**共催** 世田谷アートフリマプロジェクト
協力 世田谷233

40代男性の声

地域で暮らす方々がイベントを通じてつながるのはとても素敵なことだと感じます。

1日で出展者は80組を超え、お気に入りを探す多くの人で賑わう

区内で活動する、おはなしの会が大集合！

おはなしいっぱい

「世田谷おはなしネットワーク（＊）」と共催する本企画は、毎年、3日間のおはなし会『おはなしいっぱい』と2回の講演会を開催している。

おはなし会は、構成、出演、準備のすべてを出演者たちが行う市民の手作り企画として回を重ね、今年度で13回目を迎えた。幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、すばなし、手あそび、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩な上演を行い、特別ゲストも招く。本年度は、埼玉県久喜市で活動する市民グループを招き、地域を超えた交流が行われた。長年の活動で培われた運営のノウハウを伝えながら、夏の恒例行事として出演者、来場者とも、多くの区民に親しまれている。

講演会では絵本作家を講師に招き、作り手の想いをうかがい、演者としての造詣を深めた。

＊１９９７年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、56のグループから成る。

DATA

開催日時 2013年8月21日（水）13:00～15:00、22日（木）・23日（金）11:00～15:00　**会場** ワークショップルームＡＢ　**出演** 17グループ、特別ゲスト：トムの会　**来場人数** 延べ1,538名
共催 世田谷おはなしネットワーク　**協力** 世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館
《関連企画》
1.講演会「さがしてみよう身近な自然～高柳芳恵さんを迎えて」
開催日時 2013年6月20日（木）10:00～12:00　**会場** セミナールームＡＢ　**講師** 高柳芳恵　**参加人数** 96名
2.講演会「唐亜明（タンヤミン）さんが語る自作絵本～中国の物語から」
開催日時 2013年11月19日（火）10:00～12:00　**会場** セミナールームＡＢ　**講師** 唐亜明（タンヤミン）（絵本作家）、郭敏（ヤンチン）（揚琴奏者）
参加人数 62名

30代女性の声

たくさんのグループのものがいっせいに見られるイベントは嬉しい機会です！

01 手あそびを楽しむ子どもたち

03 児童館の子どもたちによる自作絵本の上演

02 引きつけられる大型絵本の迫力

04 作家のお話をうかがう講演会の様子

自分たちの活動を伝える手法を身につけよう

NPO・市民活動のための マーケティングセミナー

「NPOのマーケティングの基礎／NPOのソーシャルメディアの活用」

本講座は市民活動支援を目的に、これまでも「認定ＮＰＯ法人制度と改正ＮＰＯ法の概要」、「ファンドレイジングと広報の基礎」と展開してきた。今年度のテーマは「マーケティングの手法とソーシャルメディアの活用の基礎」。ＮＰＯの活動には、寄付や会員、ボランティアなどの支援を得ること、サービスを提供して対価を得ること、そして最終的に組織の目的を達成することが何より大切である。講座では、参加者が課題を認識して、ターゲットとアプローチ手段を明確化することの重要性を再確認し、支援者を獲得する効果的なサービス提供について学んだ。

マーケティングを学び、自分たちの団体の課題を認識する

DATA

開催日時 2014年2月25日（火）①NPOのマーケティングの基礎、3月4日（火）②NPOのソーシャルメディアの活用／18:30～21:00　**会場** セミナールームAB　**講師** ①講師 長浜洋二（NPOマーケティング研究所代表）、②山田泰久（日本財団公益コミュニティサイトCANPAN事務局）　**参加人数** ①39名②30名　**参加費** ①②とも1,000円　**企画進行** 株式会社世田谷社

60代女性の声

頭の中にあった問題点を整理することに役立てそうです。

市民活動防災ワークショップ

災害対応図上訓練・もしも大規模災害が起きたら

昨年度に引き続き、市民活動活性化事業の一環として開催。大地震などの緊急事態は時間と場所を選ばない。イベントなどの市民活動中にも発生する可能性はある。もし、この瞬間に首都直下型地震などが発生したら、私たちは冷静な行動ができるのだろうか？

ワークショップでは、災害発生時の行動を時間経過に沿いながら進行。実演で、身近な者ができる応急手当、救急救命のデモンストレーションをしながら、地図を広げて自身の行動演習とともに、それぞれの団体ができる支援のあり方についてもシミュレーションをしながら話し合った。

災害後の地域で、自分たちの団体がどんな活動ができるのか地図に貼り付けた

DATA

開催日時 2014年3月21日（金・祝）／14:00～17:00　**会場** セミナールームAB　**講師** 宮崎猛志（IVUSA危機対応研究所）　**参加人数** 30名　**参加費** 500円　**企画進行** 市民活動支援コーナー／特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）

50代女性の声

日常的な備えと、皆さんで話し合うことの大切さを実感しました。

多様な市民活動の交流の場として！

市民活動支援コーナー

生活工房には、世田谷区内の公益的な市民活動団体の活動促進や区民の社会活動推進を目的に「市民活動支援コーナー」がある。さまざまな活動をしている市民活動団体が登録し利用する「活動の場」として定着してきた。平成18年からは、社会のニーズにも柔軟に対応できるＮＰＯに運営業務を委託している。

また、同コーナーに登録している団体が中心になり「市民活動体験喫茶パオ」を開催。各団体が活動についてパネル展示や商品販売ブースを設ける交流イベントとして恒例となった。団体間の繋がりや、来場者に向けた発表の場としても好評である。

さまざまな団体が活用する支援コーナー

DATA

場所 生活工房３階　**開館時間** 9:00～21:00（月曜休館）　**委託先** 特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）　**来場人数** 20,636名

《関連企画》

パオフェスタ2013　市民活動体験喫茶パオ

開催日 2013年10月19日（土）・20日（日）／11:00～18:00　**会場** 市民活動支援コーナー　**参加人数** 597名

世田谷の活動団体が集う「ネッティまつり」

世田谷市民活動支援会議

市民活動支援会議とは、世田谷区内で、市民活動の場としての施設や助成金の提供などさまざまな支援を行っている６つの中間支援団体と世田谷区で構成された「より良い地域社会を作るための市民活動」を支えるネットワークである。今年度は「活動の支援者を増やす、ファンドレイジング」をテーマに、専門家によるレクチャーを行い交流会も開催。区内でそれぞれ活動する参加者に、その活動を進めるために必要なものは何か？　そもそも何をするために協力が必要なのか？　交流会ではそんな視点で自分たちの活動を再確認しながら話し合いを行った。

「ファンドレイジングについて」講師 鈴木歩氏

DATA

共催 社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議会、世田谷区地域福祉部生涯現役推進課、世田谷区生活文化部市民活動推進課

《関連企画》

第５回せたがや市民活動交流会・ネッティまつり

ファンドレイジングって、なに？～活動の支援者を増やそう

開催日時 2013年1月13日（月・祝）／14:00～17:00　**会場** 三茶しゃれなあど　**講師** 鈴木歩（特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 事務局長）　**参加人数** 42名

区民による手づくりの国際交流

第22回 国際交流inせたがや2014

生活工房では、区民団体が行う国際交流事業を共催し、サポートしている。

今年で第22回目となった「国際交流inせたがや」は、在日外国人との文化交流をテーマに行われている、区民手づくりの国際交流事業である。各国の大使館大使、書記官等を来賓に迎え、約350名が参加。ジャワ舞踊や日本舞踊などのアトラクションや、お茶や和服の着付けなどの日本文化の体験コーナーも設置された。

また、11か国のPRブースが出店、各国の特産品の販売や文化紹介が行なわれ、区民と在日外国人との交流が行われた。

各国の特徴を活かしたブースが出展

DATA

開催日時 2014年2月22日（土）13:00〜16:00　**会場** ワークショップルームAB、セミナールームAB　**来場者数** 350名　**参加費** 1,000円　**共催** 世田谷海外研修者の会

市民アーティストの表現の場

ギャラリーカフェくりっく 壁面展示

三軒茶屋駅前の様子を窓越しに眺めながら、コーヒーやワインが楽しめる開放的なカフェ空間「ギャラリーカフェくりっく」（キャロットタワー2F）。その壁面は、市民が自らのアート作品を発表できる〝手づくりの展覧会場〟で、油彩・水彩画、イラスト、押し花、写真、書、和紙ちぎり絵、グラスペイント、版画などの作品群が、4週間ごとに入れ替わる常設のアートギャラリーとなっている。

緊張や静寂が漂うギャラリー鑑賞とは一線を画したカジュアルな雰囲気と、交通至便な点が人気を呼び、〝市民アーティストの表現の場〟として定着しつつある。

9月期 海からの便り「1マイル写真展」

DATA

開催日時 2013年4月28日（日）〜2014月4月5日（土）／平日9:00〜20:30（土11:00〜20:30／日祝11:00〜19:00）　**会場** ギャラリーカフェくりっく　**参加数** 12企画（展示期間各4週間）**来場者数** 68,600名　**展示費用** 15,000円

《年間スケジュール》

【4月期】 I LOVE NEW YORK 1978〜82 我が思い出の街NYC **【5月期】** NO FRAME IN FRAME **【6月期】** 水彩画の会 "美匠" 展覧会 **【7月期】** スケッチで遊ぶ 水彩画展 **【8月期】** 野本剛志作品展 **【9月期】** 海からの便り「1マイル写真展」 **【10月期】** 羽根色 水彩色えんぴつ展 **【11月期】** 世田谷木版画の会展 **【12月期】** 篠田紀美代版画展 **【1月期】** 亀龍会 和紙ちぎり絵 **【2月期】** ときめく春の書作展 **【3月期】** 花に魅せられてVI

数字でみる 生活工房の数々

来場者数　来場者総数 195,454 名

展覧会	55,116名	＊関連イベント参加者を含む
ワークショップ	556名	
セミナー・イベント	1,363名	
地域と市民活動	113,620名	
貸館使用者・来場者	24,799名	

事業数　事業総数 89 件

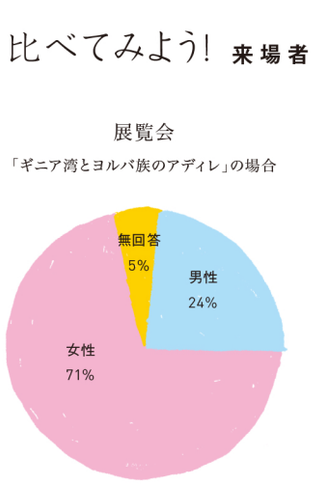
展覧会	14件 ／ 関連イベント	22件
ワークショップ	9件	
セミナー・イベント	21件	
地域と市民活動	23件	

月に平均 7.4 事業を実施。
＊一部、通年事業を除く

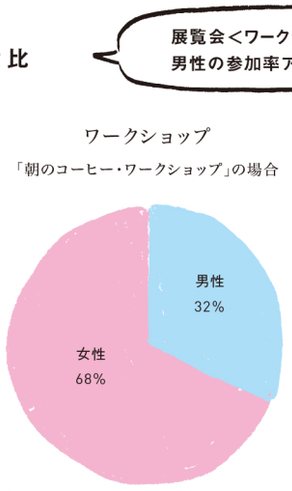
比べてみよう! 来場者の男女比

展覧会＜ワークショップ＜トークイベントの順に男性の参加率アップ

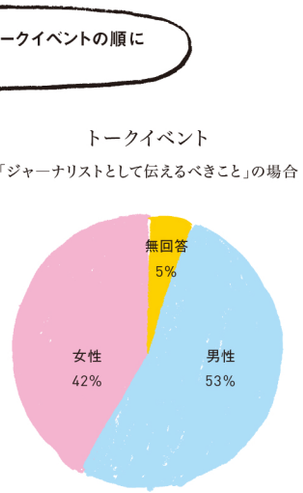
展覧会
「ギニア湾とヨルバ族のアディレ」の場合



ワークショップ
「朝のコーヒー・ワークショップ」の場合



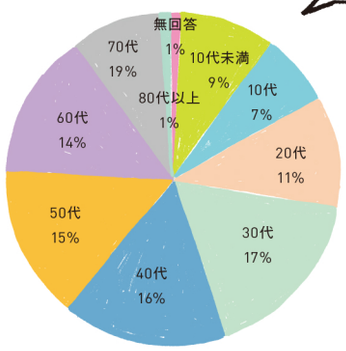
トークイベント
「ジャーナリストとして伝えるべきこと」の場合



まとめてみよう!

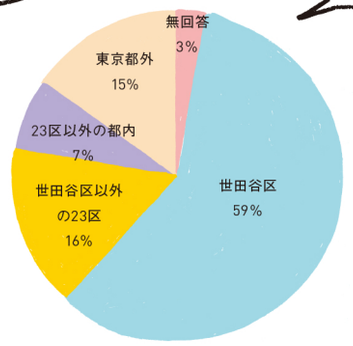
データのある約1400件のアンケート回答をまとめて出した数字

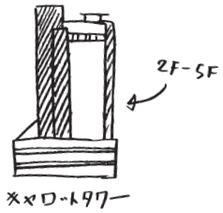
来場者の年代



ワークショップは区内＞区外、展覧会や講演・セミナーは区内≦区外の傾向です

来場者の住まい





生活工房施設ガイド
FLOOR GUIDE

生活工房は、地域の人々の活動や発表の場！

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などにお部屋を貸し出しています。スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせ下さい。

5F 講演会やミーティング

セミナールーム B
83m²／定員48名 ／ 利用時間9時～22時

セミナールーム A
74m²／定員48名／利用時間9時～22時

「セミナールーム」は、講習会や会議用のスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。各部屋の仕切りを外せば最大で120名まで収容できます。《貸出対象スペース》

4F ものづくりや展示を楽しむ

ワークショップルーム B
145m²／定員50名／利用時間9時～22時

ワークショップルーム A
126m²／定員50名／利用時間9時～22時

「ワークショップルームA」は、“ものづくり”やトークイベントに対応したスペースで、併設されたキッチン（63m²）には、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも適します。
「ワークショップルームB」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルを動かすことで、室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。《貸出対象スペース》

3F 生活工房の展示や市民活動の拠点

生活工房ギャラリー
開館時間：9時～20時

市民活動支援コーナー
利用時間：9時～21時

「生活工房ギャラリー」は、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（一般への貸出はしていません）。
「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。パソコンや印刷機などの利用も可能です。

2F 壁面ギャラリーで作品発表

ギャラリーカフェくりっく
営業時間：平日　9時～20時30分
土曜 11時～20時30分
日祝 11時～19時

「カフェくりっく」は、壁面を使って一般公募による作品展示を行っています。写真、イラスト、版画、絵画、押し花など約1ヶ月ごとに入れ替えます。《貸出対象スペース》

FLYER GALLERY

生活工房のフライヤー

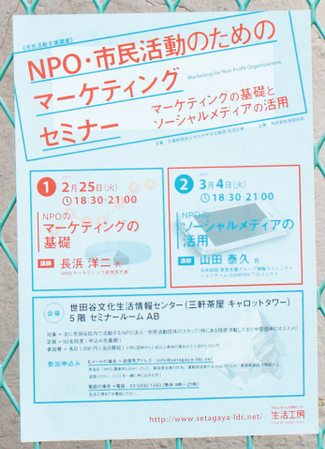
今年度も事業ごとに多彩なデザインの
チラシを制作しました。
ここではその一部をご紹介します!

撮影＝豊田 都

窓花　中国の切り紙―黄土高原・暮らしのフィールドワーク
デザイン＝加藤賢策（ラボラトリーズ）

（左上から時計まわり）
布おもちゃを届けて　デザイン＝ALL RIGHT GRAPHICS　写真＝後藤洋平
ギニア湾とヨルバ族のアディレ　デザイン＝大西隆介（direction Q）　写真＝Henry John Drewal
夏の子ども　デザイン＝いすたえこ（NNNNY）、渡辺明日香
日本人の美意識としての“黒色”　デザイン＝アイ・エイチ ファクトリー
渋産―made in shibuya product　デザイン＝昭和女子大学環境デザイン学科
集う衣服　デザイン＝サナダスタジオ

（左上から時計まわり）
インフォメーショングラフィックス展［エネルギー編］　デザイン＝ダルーヴィジョンズ
現代につづくシルク交流展　デザイン＝植竹保子
日常／非日常展　デザイン＝片山中藏
DAYS JAPAN 写真展 2013　デザイン＝世田谷社
レイ・リケット バック展　デザイン＝山本万里子
JAPONDER10　第10回留学生研究発表会　デザイン＝Yumjin JEON



（左上から時計まわり）
知の航海2013 vol.1 人口減少社会と小商い　デザイン＝溝端貢　アートワーク＝松井一平
知の航海2013 vol.2 ふゆまつり まちのまつりごと　デザイン＝片山中蔵　写真＝植本一子
知の航海2013 vol.3 空き地農業　都市・農・人の新たなつながり　デザイン＝溝端貢　アートワーク＝松井一平
NPO・市民活動のためのマーケティングセミナー　デザイン＝世田谷社
触れる地球セミナー「地球目線で未来をデザインする」　デザイン＝世田谷社

（左上から時計まわり）
朝のコーヒー・ワークショップ
朝のウッド・クラフト・ワークショップ
朝のワイン・ワークショップ　以上、デザイン＝漆原悠一（tento）　写真＝嶋本麻利沙
マイ・エンディング・ノート　デザイン＝FOLK DESIGN LABORATORY　写真＝渡辺まり子
中学生プラグインハイブリッド教室　デザイン＝坂脇慶
分解ワークショップ　デザイン＝瀬畑和美

ワークショップ・フォトギャラリー

夏の子ども

夏休みに実施された子どものワークショップ。学校とは違う特別な時間は、子どもたちの好奇心や創造力を育み、私たちはその豊かな発想に驚かされます。真剣な眼差しやおどけた表情、そしてはじける笑顔。ここではそんなワークショップのヒトコマをご紹介します。

撮影＝ゆかい

くらし・うるし・研究室

► この事業の詳細はP.48をご覧下さい。

じゃーん

14歳のワンピース

► この事業の詳細はP.50をご覧下さい。

夏のNEWSなアニメーション

► この事業の詳細はP.49をご覧下さい。

ok!

へんしーん

生活工房2014年度スケジュール（4〜6月）

4月5日（土）〜20日（日）［展示］世田谷アートフリマつながり展2014
4月19日（土）・20日（日）［イベント］世田谷アートフリマ vol.21
4月25日（金）〜5月18日（日）［展示］一服、日本茶、三軒茶屋展
5月23日（金）〜6月8日（日）［展示］写真とことば、記憶の種　福島── 東京
6月14日（土）〜7月13日（日）［展示］市民活動支援コーナーの日々展2014
6月17日（火）［セミナー］はたこうしろう氏講演会 ぼくの絵本の作り方

開催情報、関連イベントなど詳細はホームページをご覧ください。

撮影＝豊田 都

ご支援・ご協力いただいた企業、団体、教育・公共機関等（各50音順）

2013年度、生活工房の活動にご支援・ご協力をいただきました皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

［共催］
NHK放送技術研究所、（一財）NHK放送研修センター日本語センター、SUNUS（サナス）、世田谷アートフリマプロジェクト、世田谷おはなしネットワーク、世田谷海外研修者の会、世田谷市民活動支援会議、（株）デイズジャパン、TOY工房どんぐり、東京都立総合工科高等学校

［協賛］
トヨタ自動車（株）

［協力］
愛知県立芸術大学、（有）アクリアル、糸工房「森」、ele-king、岡さんのいえ TOMO、小川木材株式会社、お茶の水「おりがみ会館」、KANNOTEXTILE、（株）空間構造、（専）桑沢デザイン研究所、sakumotto、眞田塾、sitka、昭和女子大学、女子美術大学、女子美術大学ファッションテキスタイル表現領域、セーラー万年筆（株）、全国米穀販売事業共済協同組合、SOLOLA、太子堂八幡神社、七月七日会、ちいさな藍美術館、（株）東京かんかん、東京工芸大学、（株）道祖神、東京農工大学、（株）東芝、東北芸術工科大学、日本米穀小売商業組合連合会、福岡アジア美術館、（公財）米穀安定供給確保支援機構、（株）ベネッセスタイルケア、宮川園、山田照明（株）、ゆかい、リシタンジャパンセンター

［後援］
世田谷区、世田谷区教育委員会

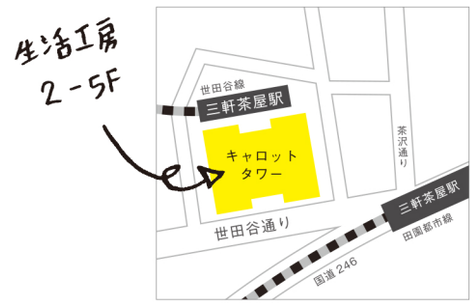
生活工房アニュアルレポート2013
発行日: 2014年4月25日

デザイン: グルーヴィジョンズ
表紙撮影: 永峰拓也

印刷: 図書印刷株式会社
協賛: 株式会社東急コミュニティー
編集・発行: 公益財団法人せたがや文化財団　生活工房
〒154-0004東京都世田谷区太子堂4-1-1　キャロットタワー
電話: 03-5432-1543　ファックス: 03-5432-1559
http://www.setagaya-ldc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。
©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2013-2014
Printed in Japan

生活工房アニュアルレポートとは──
生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。



公益財団法人 せたがや文化財団
生活工房
東京都世田谷区太子堂 4-1-1
キャロットタワー
TEL 03-5432-1543（代表）
http://www.setagaya-ldc.net/